縦走　旭岳から大雪山へ～お花畑と青空と～

【報　告　者】中村
【日　　時】2005 年 7 月 15～18 日　　【天　候】くもり時々晴れ
【参　加　者】長尾・篠原・中村

≪コースタイム≫

8：13 旭岳→9：40 間宮岳→10：20 北海岳→11：30 白雲分岐→13：05 高根が原分岐→15：40 中別岳→17：10 キャンプ場

≪　報　　告　≫

1 日目『中　村』

北海道１日目はバタバタであった。諸事情があり飛行機に乗り込むのがギリギリで、しょっぱなからドキドキハラハラした始まりであった。

１日目は旭岳まで歩くつもりがカーナビに導かれるまま間違ったところで高速を降り、結局ロープウェイに間に合わず、明日頑張って歩こう！という意気込みのもと眠りにつく。

朝早く起きてロープウェイの１番先頭に並び、いざ出発！朝もやの中を歩き出した。歩き出しの場所は普通の観光客も歩けるところできれいに整備されており、花もチラホラ出てき始めた。強風の吹きすさぶ中、歩くうちにガレ場になっていった登山道を歩くうちに旭岳に到着。この時点では視界はまだ悪い。でも、北海道で初めて登頂した山ということで喜びはひとしおであった。

先に進むと雪渓が出てきた。が、ガスで先が全く見えず、進む方向はこっちでいいのだろうかとちょっと不安・・・。とにかく人がいない！と、その時、別のグループも不安そうにやってきた。とりあえずアイゼンを装着して先に進んでみることに。しばらく歩いたらみるみるうちに視界が晴れてきて、あんなにガスっていたのに、みるみるうちに青空が広がってきた！

雪渓の先も見え、その先にはたくさんの登山者がいた。「やっぱり日頃の行いよね～」と決り文句を言いつつ進むと、目の前にお花畑が！！ピンクの花、黄色の花、白い花、紫の花（つまり名前が全く分からない）が一面に咲き、まるでアルプスのようだった。（あくまで私のイメージ）朝とはうって変わったようなお天気の中、気持ちよくお花畑の中を歩いていく。稜線を歩くのがこんなに気持ちのいいものだと初めて

知った。きれいな青空、真っ白な雲、そして一面のお花畑。その中を風に吹かれながら歩いていると、あまりの気持ちよさに思わず頬が緩んでしまった。

白雲分岐から白雲岳非難小屋まで急な坂道を 20 分ぐらいかけて下る。そして広々した高根ヶ原を行き始めるとだんだん雲行きがあやしくなってき、ガスもモクモクと出てきはじめてきた。黙々と歩いていると、霧の中に突然中別沼ヌッと現れた。ガスの中にあるので沼の端が見えず、まるで大きな流氷の浮かぶ湖という感じだった。この辺ではガスに囲まれて視界がきかず、ますます熊の出現が怖く感じ、長尾さんが学校から持ってきてくれた楽器の鈴を鳴らしながら進む。

ようやく忠別避難小屋に到着！すでにテントがたくさんたててあり、空いているスペースへテントを設営。広々とした雪渓の脇にテントを設営できる小さなスペースがあるがすでにいっぱいで、空いているスペースに設営。長尾さんはもちろん焼酎、そして篠原さんが持ってきてくれた紅茶をバーボンで割ったりなどして初めての山中泊の夜は更けてゆく・・・。さあ、明日も頑張るぞ！

2 日目『長　尾』

夕方少し雨が降って心配していた天気も夜中に寒さで目覚めて外を見ると、ガスの合間から星がのぞいていた。テン場は雪渓の下にあるので冷気が降りてきて周りより冷えるようだ。3 時半ごろから隣のテントからおばさんの甲高い声が聞こえてきて「もう寝てられん！！」と予定より早く起床。外に出れば、さすがは東の果ての北海道、すでに明るい。今日は晴天、幸先いいぞ。と朝食を食べてテント撤収。テントの下にシートを敷いていたのでまったく汚れていない。（テントの下には面倒でも、重くてもシートを敷きましょう。できない人は貸し出し禁止です。）さぁ出発とおもいきや、中村さんが手袋を落したらしい。昨日「そのノースフェースの手袋いいねー。」とほめていたのにもったいない。心当たりの分あるところを探し回ったが結局見つからなかった。いつか、くまが「おじょうさん。お待ちなさい。」と拾って持ってきてくれるだろうか。でも、受け取るのも命がけか。

雪渓を登って登山道に戻り五色岳を目指す。途中、這い松のトンネルがつづき、半そでの私は腕をすりむいてしまった。五色岳の山頂からの展望はすばらしく、北に遠く旭岳を望み、その山頂付近だけガスが連続して起こっているのが見える。山頂から東に向かってなだらかな稜線がつづき途中、ポッコリと岩山になっているのは白雲岳。南東方向の遥かかなたにあるコニーデ型の秀麗な山は北海富士だと教えてもらった。そして振り返って南西側にどっかりと腰をおろしているのが、初めの計画で行こうとしていたトムラウシ山だ。ピナクルに入る前に剣を単独行していたら、同じくソロの人に一番良かったと聴いて以来、夢見ていた山だ。ここで晴天の下、トムラウシをバックに各々ポーズを考えて記念撮影。中村さんと篠原さんは多くのギャラリーに笑われな

がらもそれぞれに目立つポーズを決めていた。北海道の山おじさんとも仲良くなってこのあともしばらくは休憩のたびにいろんな話（ほとんどがヒグマはでますか？の話）ができて楽しかった。

化雲岳との鞍部で湿地帯と大きな池があり、高山植物が咲き乱れ雪渓との色の配置も美しい場所に出た。ここをアイヌの人たちは神遊びの庭と呼んでいるそうだ。（神とはヒグマのこと）そんな中を木道が２００ｍほど続いている。しばらく歩いていくと木道を横切るようにヒグマの足跡を２か所で発見。ついにヒグマとの遭遇だ。大きさは男性の手のひらぐらいで、その横にご丁寧にも「クマ」とストックで書いてあった。ごく最近の足跡。やっぱりヒグマはいるんだーとうれしいような怖いような感動をおぼえながら、しばし神様の楽園を眺める。

化雲岳につく頃にはガスが出てきて、天気を心配しながらの下山になる。標高差１２００ｍあまりを黙々と下る。途中ぬかるみ有りの、渡渉有りの、ちょっとやぶ漕ぎ有りーの楽しくない道だ。終点近くの滝見台からは羽衣の滝がよく見えた。落差が２００ｍ以上はあるだろう。ふたつの谷から流れ落ちた雪渓の水が滝の途中で合流しながらほぼ垂直に落ちている。涙壁の急坂を降りて天人峡温泉に無事下山。降りてみたら中村さんだけ靴もズボンも泥だらけになっている。このあたりは経験の差かな？！頼んでおいたタクシーに乗車して出発地点に戻る。

旭岳温泉で汗を洗い流してから、富良野方面へドライブだ。北海道を嘗め尽くすように楽しもうとする二人の勢いにちょっとビックリ。手初めに四季の丘へ。入口の売店で中村さんが悩んだあげく揚げたてのコロッケを買い、つられて残りの二人もゲット。食べながら花を見てまわる。広大な山の斜面に何十種類もの花々が整然と区画ごとに一直線に植えられていて、その規模と幾何学的な配置もなかなかきれいだった。次にセブンスターの丘へ。美瑛町はなだらかな丘陵地帯になっていて、この丘はその全体を見下ろせる位置にある。ジャガイモ畑やいろいろな作物の畑の色がパッチワークのようになって地平線まで続いている。まるでカナダや北アメリカのようだ。行ったことないけどきっと似ているはず。そんな中にポプラや樺の木がアクセントのように風に葉を揺らしながら涼しげに立っている。時刻も７時近くだったため人が少なく静かで、夕日をあびる北の大地はとても美しく見えた。その後ケンとメリーのスカイラインのポプラの木にも寄った。

買い出し後、すばらしく整備されたダム公園を発見。幕営して北海道の魚貝類&美瑛牛のステーキを食べて就寝。翌朝も４時に起床して十勝岳方面をドライブして空港でレンタカーを返却。しっかりとお土産を買って機上の人に。東京で乗り継いで蒸し暑い福岡に到着して旅は終わりました。初めての北海道の山。バースディチケットがなければ実現しなかった山行。あの高山植物の美しさはずっと忘れないでしょう。同行してくれた篠原さん、中村さんありがとう。次回はトムラウシから十勝へ縦走したいなぁ。クマには会いたくないけど。

《費用》

航空券代　福岡→札幌　旭川→東京　東京→福岡の３フライト	37,650 円
レンタカー代	5,833 円
高速料金　ガソリン代　駐車代　ロープウェー　タクシー　共同食	
買出し２回などの雑費	9,043 円
一人あたり　計	52,526 円

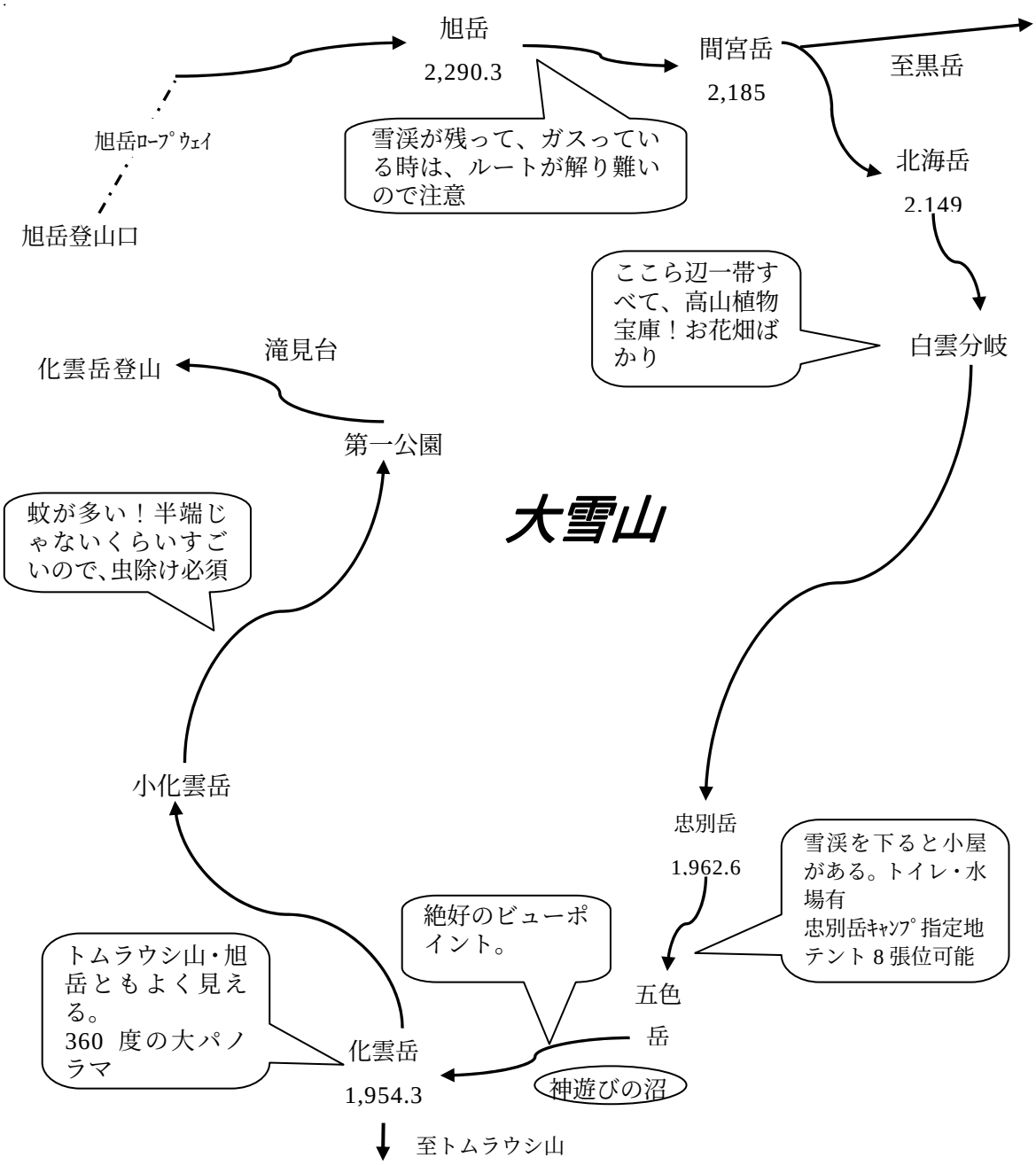
【北海道は、でっかいどー！！後方に見えるのがトムラウシ山】

📷 📷 📷 プチ北海道高山植物写真館 📷 📷 📷

【チングルマ】

【コマクサ】

【白い花】

『大雪山ルート図』

旭岳登山口　―　町営の無料駐車場有 40 台ぐらい（有料駐車場も有）